

調査研究代表者氏名：一ノ瀬 正和

評価コメント

- Actimarkerの有用性が認められたわけであるが、今後はこれを用い、COPDの患者さんの運動量を増加させ得るべく起用することが必要なのではなかろうか。
- COPD患者の活動性維持療法としてフライングディスクが推奨されているが、他の競技で同様の効果が期待できるものもあると思われるので、今後幅を広げていただきたい。
- Actimarkerにより、COPD患者の病期、年齢による活動強度、活動時間の関係と、活動性とFEV1との相関性が示された。今後、これらの評価法を用いて、医療介入の効果を検討するとともに、活動性維持に適したプログラムが提示されることに期待する。
- COPD患者の活動性の低下を定量的に測定する方法を開発した研究として評価する。
- COPD患者のADL評価における3次元加速度計の有用性を、国際的標準法と対比して検討して明示した。独自性、簡便性が今後の普及から期待される。また、今後の大規模研究への展開も考えられる。
- COPDの患者の日常活動性を定量的に把握できるということは非常に独創的で優れた研究である。COPDだけでなく他の疾患にも応用できるかもしれない。問題は、この研究結果を患者自身に還元して、その活動性を改善するために、如何にしてそれを応用するかである。
- Actimarkerを用いた研究が順調に推移し、Negative exp. Pressureを利用した研究のさらなる進歩が望まれる。